

## 日本プロセス化学会第 40 回理事会議事次第

日時 令和 3 年 6 月 18 日(金) ～6 月 23 日 (水)

### 議題

#### 1 確認・報告事項

- (1) 第 39 回理事会議事録(2019 年 12 月 6 日開催)承認の件  
学会 HP に掲載済み
- (2) 役員移動 (新任理事の紹介)  
2020 年度: J T 稲葉隆之様より小野木照二様 (医薬総合研究所 生産技術研究所所長) に交代  
2021 年度: 第一三共 小野田俊彦様より中村嘉孝様 (製薬技術本部 プロセス技術研究所長) に交代  
味の素 白神浩様より浜田貴之様 (バイオ・ファイン研究所 合成技術グループ長) に交代  
富山県立大学 中島範行様 (富山県立大学副学長) 新任
- (3) 2021 サマーシンポジウム準備状況  
中島範行 (富山県立大学) 理事と清都太郎 (富士フィルム富山化学) 理事のリーダーシップのもと、2021 年 6 月 24 日 (木)、25 日 (金) の予定で、初の富山開催を目指して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の収束が認められないため、参加者の安全・安心を担保することが困難であるとの結論に達した。2020 ウィンターシンポジウムに続いてのオンライン開催で準備が進められている (会員のみ・参加費無料)。
- (4) 第 15 回プロセス化学ラウンジについて  
ワクチンの職域接種等の状況等をフォローして、8 月末までには委細の可否を最終決定する (将来計画委員会: 大原委員長、で検討中)。
- (5) 2021 ウィンターシンポジウム 11 月 26 日 (金) 東北大学川内萩ホール準備状況  
林雄二郎 (東北大学) 先生、海老原新一氏、清水仁 (中外製薬) 理事を世話人として第一部 (10:00~12:40) 日本プロセス化学会特別企画 『(仮) SDGs へ向けたプロセス化学の貢献』、ランチョン座談会 (11:40~12:40)、第二部 (13:00~17:20) 日本プロセス化学会 2021 ウィンターシンポジウム (JSPC 優秀賞受賞講演・授賞式を含む)、情報交換会 (TKP ガーデンシティ 仙台駅北: 18:20~19:45 最大延長 20:30)。なお理事会は 2021 年 11 月 25 日 (木) 15:00-17:00 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 (カンファレンスルーム 8E)、引き続き 17:30-19:30 懇親会 (カンファレンスルーム 8C) を予定している。  
  
新型コロナウイルス感染症の影響でランチョン座談会と情報交換会を割愛あるいはシンポジウムそのものをオンライン開催とする可能性もある。8 月末のメール理事会で最終決定の予定。
- (6) 第 14 回プロセス化学ラウンジ(2019 年 11 月 29, 30 日(金・土) 富士フィルム和光純薬湯河原保養所報告  
2019 年 11 月 29 日 (金) ～11 月 30 日 (土) 富士フィルム和光純薬株式会社のご厚意により湯河原研修所で開催した。5 演題 (講演時間 30 分、質疑応答 15 分) の講演後、夕食、情報交換会では活発な討論が繰り広げられた。
- (7) 2019 年ウィンターシンポジウム 12 月 6 日(金)京都テルサ報告 (資料 1)  
竹本桂司 (京都大学) 先生と稲葉隆之 (日本たばこ産業) 理事のリーダーシップのもと午前の特別講演、ランチョン座談会に続いて午後から招待講演 5 演題と JSPC 受賞講演 3 題の発表が有り、情報交換会まで、活発な討論と意見交換が成された。シンポジウム参加者 370 名、情報交換会参加者 227 名。
- (8) 2020 年サマーシンポジウム報告  
中島範行 (富山県立大学) 先生と、清都太郎 (富士フィルム富山化学) 理事のご尽力で準備を進めたが、2020 サマーシンポジウムは新型コロナウイルス感染症の影響で、「2021 年 6 月 24 日 (木) ～25 日 (金)・

富山県民会館」に延期し、2021 サマーシンポジウムとして開催することを決定・アナウンスした。その後、新型コロナウイルス感染症の収束が認められないため、参加者の安全・安心を担保することが困難であるとの結論に達し、2021 サマーシンポジウムはオンライン開催とすることが決定した。

(9) 2020年ウィンターシンポジウム 11月13日(金)オンライン開催 (資料2)

長澤和夫(東京農工大学)先生と田上克也(エーザイ)理事のリーダーシップのもと、2020年11月13日(金)タワーホール船堀での開催を目指して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の収束が認められないため、参加者の安全・安心を担保することが困難であるとの結論に達し、日本プロセス化学会初のオンライン開催に踏み切った(会員のみ・参加費無料)。5名の招待講演の先生方の興味深い講演に対して、活発な議論が繰り広げられた。オンライン開催の様々な長所と短所を抽出することができ、今後のシンポジウム開催に大きな示唆を与える開催であった。シンポジウム参加者302名。

(10) 地区フォーラム報告

東四国地区フォーラム

2019年10月19日(土)の日本プロセス化学会東四国地区フォーラム発足10周年記念2019年度第2回(第30回)日本プロセス化学会東四国フォーラムセミナー(徳島文理大学薬学部)では、2名の招待講演とポスター発表、情報交換会で活発な議論と情報交換が繰り広げられ、10周年に相応しい盛会であった。また、2020年1月11日(土)には2019年度第3回(第31回)日本プロセス化学会東四国フォーラムセミナーが開催され、2名の招待講演とポスター発表、情報交換会で活発な議論と情報交換が繰り広げられた。ポスター優秀賞を徳島大学薬学部の斎藤亜梨紗さんが受賞した。活発な活動を展開して戴いている東四国地区フォーラムであるが、この後新型コロナウイルス感染症の影響で開催に至っていない点が残念である。

東海地区フォーラム

2019年9月27日(金)第3回日本プロセス化学会東海地区フォーラムが名古屋工業大学で開催された。招待講演一演題と依頼講演2演題でその後の情報交換会まで活発な議論と情報交換が繰り広げられた。活動が軌道に乗ってきた東海地区フォーラムであるが、この後、新型コロナウイルス感染症の影響で開催に至っていない点が残念である。

(11) PACIFICHEM

2021年12月16日から21日の予定で、ホノルルで開催が予定されている。新型コロナウイルス感染症の状況次第で、オンライン開催に移行される可能性も有りますが、現状では現地開催を基本軸として、現地参加できない発表者はオンラインを併用する、ハイブリッド開催になるようである。今後の動向がわかり次第、会員メール等で逐次ご連絡する予定。

(12) 日本プロセス化学会発足25周年(2026年)記念誌

(株)成山堂書店さんから、出版時期について打診を受けており、今後、日本プロセス化学会としてどのように考え、進めていくべきかを含めて出版委員会(赤井委員長)に付託する。

(13) シンポジウムなどのイベント支援会社(現在は化学工業日報)再検討について

(14) その他

**出前講義** 3件(2020年度)

**会員入会状況**

現在の会員数

賛助会員 114社

正会員 367名

学生会員 87名

**2021年度新規入会**

賛助会員 5社

正会員 49名

学生会員 29名

## 2 協議事項

(1) 2020 年度 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) 決算案 (資料 3)

(2) 2021 年度予算案 (資料 4)

(3) 2018 年度通常総会次第案 (資料 5)

(4) 今後のシンポジウム予定

### 2022 サマーシンポジウム

6/30～7/1：富山県民会館&ホテルグランテラス富山 (情報交換会)

世話人：中島範行先生 (富山県立大学)

清都太郎先生 (富士フィルム富山化学 (株))

(2021 オンライン開催のため、2 年連続で富山開催の世話人をお引き受け戴いた)

### 2022 ウィンターシンポジウム

日程・世話人：未定 (候補として塩野義、大日本住友など検討中)

世話人立候補 歓迎いたします!

### 2023 サマーシンポジウム

日程：未定、会場：タワーホール船堀 (予定)

世話人：砂塚敏明先生 (北里大学)

村瀬徳晃先生 (大正製薬 (株))

### 2024 サマーシンポジウム

日程：未定

世話人：稲越直人先生 ((株) MICIN)、アカデミア世話人：未定

### ISPC2025

日程：2025 年 7 月 16 日 (水) ～7 月 18 日 (金)、会場：京都国際会館

(5) 地区フォーラムについて

確認・報告事項でも示した様に、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたところで、東四国地区フォーラム、東海地区フォーラム、北陸地区フォーラムのご担当の皆様には、再度活発な地区フォーラム活動を再開して戴きたいと強く望んでいる。

(6) 国際シンポジウム (ISPC) について

2023 年 8 月 2 日 (水) ～4 日 (金) に国立京都国際会館の予約をしていた「第 5 回プロセス化学国際シンポジウム」については、新型コロナウイルス感染症の影響で国内開催のサマーシンポジウムも延期やオンライン開催となっている現状から、2023 年開催には無理があるため、2 年先送りして 2025 年 7 月 16 日 (水) ～18 日 (金) を仮予約している (幸い、日程先送りで違約金等は一切発生しない)。今後の新型コロナウイルス感染症の状況にも依存するが、これからの 4 年間、できる限り国内シンポジウムを会場費の安価なところで開催して、ISPC 開催のための資金を貯めた上で国際シンポジウムに臨みたい。

(7) その他

以上